

日本体育大学

令和8年度入学者選抜 【出題の意図・模範解答】

学部・選抜方式	保健医療学部 救急医療学科 総合型選抜 学部別選考方式 I 期
科目	小論文

【出題の意図】

- ・学科特性として、テーマに対して救急救命士がどのように関わっていくべきかを問うものとした。(救急救命士の本質を理解しているか)
- ・内容は、教科書を読んで学習していることを前提とし、保健体育科の教科書に掲載されている内容とした。
- ・「これまでの保健体育の授業で学んだことを踏まえ」とし、授業に取り組む姿勢が反映されるようにした。

【模範解答】

事故や災害が発生した際、傷病者の命を救うためには、救急車が到着するまでの「最初の数分間」が重要である。心肺停止の場合は、時間が経過するほど救命の可能性は急激に下がる。したがって、現場に居合わせた市民による迅速な応急手当が、救命率を大きく左右する。

高校の保健体育の授業では、心肺蘇生法や AED の使用方法について学習した。実技も体験し、胸骨圧迫の強さや速さが適切であることの重要性を知った。このような知識と技術を一人でも多くの市民が身につけることが、命を守る社会の実現につながる。

救急救命士には、現場での活動だけでなく、応急手当の普及啓発という役割もある。具体的には、地域や学校で講習会を開き、市民に心肺蘇生法や AED の使用法を伝えることが求められる。また、講習を受けた人が実際に現場で行動できるよう、実技指導を通じて自信を持たせることも大切である。さらに、デジタルメディアを活用した発信も効果的である。動画や SNS を通じて、応急手当の重要性をわかりやすく伝えることにより、若い世代を中心に関心を高めることができる。これにより、「自分にもできる」という意識が広がり、社会全体の応急対応力が向上する。

救急救命士は、命を直接救うだけでなく、「命を救える人を増やす」活動を通して間接的にも多くの命を守る存在である。応急手当の普及は、個人の行動変容を促すと同時に、地域の安全文化を形成する基盤にもなる。今後の社会において、救急救命士はその専門性と使命感をもって、教育と啓発の分野でも積極的に関わるべきである。